

ボランティア・市民活動のコーディネーター・リーダー等推進者のための

ボランティア情報

【volunteer_information】

2012
DEC.

12

VOL.427

平成24年12月1日発行 毎月1回1日発行



「8月21日 東京公演」



みやぎけんしち がはままち
宮城県七ヶ浜町

今月の**鼓動**

宮城県七ヶ浜町

ナ ナ ゴー キュー サン イチ

「NaNa 5 9 3 1」

震災からの復興をテーマにしたミュージカル「ゴーへ(Go Ahead)」には、たくましく生きていこうとするメッセージや被災前の七ヶ浜の美しい海や歴史への想いがこめられている。

今年には支援団体の縁があつて東京や名古屋の大舞台もこなした。

「初めのうちは練習中に涙し、言葉に詰まる子もいました。震災があつて初めて七ヶ浜を知った人も多いと思うけど、もともととぎれいな海や浜があつた。元気な子どもたちもたくさんいるということも知ってもらいたいです」と、メンバーの米夏紀さんは語る。

取材日／2012年11月30日

宮城県七ヶ浜町
「NaNa5931」

2001年に設立された市民劇団。小学生から社会人までのメンバー約30名で構成。震災後、劇場は一時、避難所となるが、子どもたちは徐々に練習を再開。全国各地からのあたたかい支援に対し「ありがたい気持ちを伝えたい」という子どもたちの願いが、被災地で復興

支援に携わるNPO法人レスキューストックヤードをはじめ多くの支援者を通じて県外に届け、東京や名古屋での公演も実現。各公演では1,000人を超える来場者が子どもたちのひたむきな姿に感銘を受けた。

特集

ぼくもわたしもできるんだ！
地域を巻き込む
子どもボランティア

02

Contents

ホントは身近なボランティア
山形県山形市西山形地区
..... 06

突撃訪問！
隣のコーディネーター
(デンタルインプラントコーディネーター)
..... 07

帰ってきた！
あるある質問コーナー
..... 07

保険の広場
つながって広げ続けよう！
事務局だより
..... 08

特集

ぼくもわたしも できるんだ!

～地域を巻き込む子どもボランティア～



子どもボランティア活動を広げよう!



公益財団法人ボーイスカウト日本連盟
事務局次長

こばやし こう の すけ
小林 孝之助さん

日本社会のいたる所に、立場や年代に応じて役割を担う「支えあい」があります。それは、子どもたちが大人たちの行動から学びとることで継承されてきました。子どもの頃から積極的にその体験の機会を提供することが求めら

れています。子どもは活動を通して自らが学びや気づきを得るだけでなく、周囲の大人や地域を巻き込む力をもっているのです。

ボーイスカウトの事例としては、街頭募金や美化活動、廃品回収等があります。参加したボランティア活動で、募金者からの励ましやきれいになった街並み、ダンボールの山を見て、善意の尊さを感じ、今までにない「いい気分」を味わうことができます。そして、誰かのために役に立つ体験を数多く積み重ねることで、社会の一員としての責任感がわいてくるのです。

子どもたちの活動をサポートする大人が気を付けるべきことは、まず、子どもたち自身が企画し行動することです。子どもたちは年齢の近い先輩の意見や行動に影響を受けるため、小中学生による異年齢グループでの取り組み等も効果的です。その際、年代に応じた選択肢をそろえ、彼らの主体性を尊重し十分な安全対策を施した内容

であることも肝要です。

この後の事例①山科醍醐こどものひろばでは、強制ではない活動の中で子どもの自尊心や達成感が育まれるよう、大人が上手にサポートしています。事例②の輪島市社協児童センターでは、地域の中で大人と子どもが関わって活動することで、子どもも大人も成功体験を積み、子どもが地域を好きになったり、地域にはいろいろな人が暮らしていると気づいたりするという成長が見られます。事例③ふらっとーほくのわたりグリーンプロジェクトでは、子どもも地域の一員として町づくりに参加するうち、自分も「復興の町づくりに関わりたい」という担い手としての自覚が芽生えています。各地に青少年のボランティア活動が広がることで、全ての青少年が心豊かに成長し、より良い社会を築くための将来像を見出すことができるよう願っています。

子どもとは、誰にとっても 「いつか来た道」です。



山科醍醐こどものひろば
事務局長

むら い たく や
村井 琢哉さん



子どもたちの 豊かな育ちをめざして

私たちの活動は、1980年代からの親子劇場運動が原点で、子どもの豊かな育ちの場を提供することを目的としてきました。

主な活動には、地域で1年に一度公演している創作劇があります。他にも、地元商店街と協力して開催することもフェスタ、地域を探検していいところを探す町たんけん等、子どもとともに地域における様々な活動を行っています。

私たちの活動は、学校の部活動や塾とは異なり、強制力はありません。その子のペースで参加する中で、協調性や主体性を身に付けていってほしいと思っています。

地域と支え合う活動。

創作劇、こどもフェスタ、山科かるた

子どもたちは活動を通して、自身が成長するだけでなく、地域に目を向けるようになり、さらには大人の目を改めて地域に向けさせてくれます。

メインの活動である創作劇は、シナリオ作りの段階から当日の照明・音響まで、プロの方に関わっていただいて、地域の大人と子どもが一緒になって作ります。本格的な劇に本気で参加することで、子どもの自尊心・達成感を培います。コミュニケーションが苦手だった子どもが、演劇を通じて大きな声を出せるようになったり、子どもが頑張っている姿に大人が影響されて熱心さを増したりと、子どもを中心に様々な変化が見られます。



商店街に集まれ！こどもフェスタ

また、地元の商店街と協力して「こどもフェスタ」というお祭りを開催しています。日頃はシャッター街の商店街に3,000名もの人が集まるこのイベントは、商店街の通り300mを歩行者天国にして、遊びのエリア、劇エリア、フードエリアなど盛りだくさん。子どもも地域の方も、楽しみながら交流しています。

その他、この10年間、地域のいいところを探す取り組みとして行ってきた「町たんけん」の集大成として、「山科かるた」を作りました。子どもたちが地域を知ると同時に、訪問先の大人も、子どもたちに説明するために、地域を良く知るようになりました。

私たちの活動は、地域も理解していただいて、今では地域の全小学校に開催のチラシを配布できる関係を構築できていたり、地元のロータリークラブからのご支援を受けたりと、地域ぐるみで行っています。

ソーシャルワーカーとして 地域における子どもの活動を支えます

近年、子どもを取り巻く環境が大きく変化してきています。子どもの問題を解決していくためには、民間/行政の垣根を越えること、また、学校や保育園に責任を押し付けないことが大切だと考えています。重要なのは「誰が担い手か」ではなく「誰が主役か」。子どもが主役になるような環境をつくるためにはどうしたらよいか、どのような資源を投入できるか、議論できる機能を持ち続けたいです。

かく言う私もこの団体に育てられた一人です。大学では社会福祉を学び、今は社会福祉士として、こどものひろばの活動にソーシャルワーカーとして取り組んでいます。活動を通して、子どもたちの地域における豊かな育ちを支え、社会問題の解決につなげていきたいです。

〈取材日：平成24年12月5日〉



創作劇での真剣な表情

良い出会いの中で、
子どもたちは
成長します。

輪島市社会福祉協議会
輪島市児童センター

お ざ か さ と み
尾坂 里美さん



輪島市児童センター・輪島市子育て支援センターのメンバー

児童センターは地域の交流拠点

石川県輪島市の児童センターは、「元気な子どもたちが集まる場所」として地域に知られています。設立されて31年、6年前には子育て支援センターと合併し、0歳からお年寄りまでたくさんの方の交流の場になりました。また、厚労省が支援する「みらい子育てネット輪島」や、地域のボランティアグループ「ダディーズの会」「手作りおもちゃの会」と協働し、地域の皆さんと一緒に活動しています。

私たちの活動の目的は「子どもたちに輪島を好きになってもらう」こと。輪島を好きになることは、自分を好きになることにつながります。自己肯定観を持った、積極的な子どもたちを育てるための場になりたいと思っています。

子どもが自分の力で 生み出すドラマ

良い出会いの中で様々な気づきを得て、子どもは成長します。児童センターの取り組みの中でも、様々なドラマが生まれ、子どもたちが世界を広げる瞬間に立ち会えることがよくあります。

たとえば、ハンドベルクラブの活動です。小学4～6年生が中心で、地元の元保育所保育士さんにボランティアとして指導いただいています。地域のサロンでお年寄りの前で演奏した際、皆さんが涙を流して喜んでくださいました。その時子どもたちは、「自分たちがしていることは、すごいことだった



わじまキッズランドのメンバー、朝市で見習い中！

んだ」と気づいたと言います。

また、「こどもの町わじまをつくろう！～わじまキッズランドの活動」という活動は3年がかりで開催し、企画段階から子どもたちの手作りです。当日は約150名の子どもたちが参加しました。「おしごとたいけん」として地元の方の協力を得て、警察官、消防士、保育士、清掃員、朝市の売り子、里山里海カフェ、輪島漆芸美術館の学芸員などの職業体験をしました。子どもたちは、職業体験だけでなく、自主的に地域のことを考える視点を身につけ、さらには、実際に地域で働く人を身近に感じることもできました。

子どものチカラは どんどん広がる

「手話であ・そ・ほ」のクラブが毎年、市のボランティアフェスティバルで劇や手話ソングを披露したり、キッズランドの地元朝市で買った食材で輪

産品（輪島の名産品）を作る活動が発展して、県の食育大会に大人に交じって参加したりと、子どもたちは地域に活躍の場を広げています。このような舞台は、子どもたちにとって大きな自信になります。また、こうした活動の中でできたつながりが、次のアクションに結びつくこともあります。朝市のおばちゃんたちと顔見知りとなり、東日本大震災の際、朝市で募金活動をしました。また、能登半島地震の際には「元気もりもり隊」といって、仮設住まいの子ども達が仮設の人たちのために「もりもり食べて、ガハハと笑おう！」とお楽しみ会を企画し、喜ばれました。

子どもの元気は大人の元気！子どもの笑顔は大人の幸せ！出会いの場をたくさんつくって、輪島が好きで自分が好きな子どもがいっぱいになってほしいです。

〈取材日：平成24年12月6日〉



元気もりもり隊のメンバーと仮設住宅のお年寄り、一緒にガハハ！



子どもたちが作る苗木が、 地域の復興を勇気づけて くれています。



一般社団法人 あべ ゆい ご
ふらっと一ほく 阿部 結悟さん



震災をきっかけに動き出した 新たな地域づくり

ふらっと一ほくは、東日本大震災からの復興のために、宮城県内の20代の仲間が集まって立ち上げました。私たちの活動の一つ、「わたりグリーンプロジェクト」は、津波が奪っていった亘理町の防潮林と内陸の農地を復興し、沿岸部に100年後の森を作ること为目标に、①沿岸部と農地の計画策定ワークショップ、②苗木作り、③ツーリズムの取り組みを行っています。亘理町の防潮林の歴史は、1600年代の伊達政宗による整備までさかのぼります。以来、潮や風を防ぐだけでなく、燃料になったり、住民の憩いの場になったりと、地元から愛されてきました。今回のプロジェクトのメンバーは、当初50人の枠で募集しましたが、はるかに超える希望が集まり、子どもからお年寄りまで、現在約90人で活動しています。

子どもたちの中にある 地域への思い

沿岸部の計画策定のワークショップでは、町内の幅広い年齢層が集まって、これまでの地域の歴史を学び、未来の計画づくりを進めてきました。

また、苗木作りの一部は、町内の3つの小学校の3、4年生が主体となり、地域の植生に合致するように、地元の生き残った種を集め、苗木を育てています。小学生以下のお子さんを含め、これまでに200人を超えるお子さんが活動に参加してくれています。お子さ



小さな手で苗木作り

んたちは無邪気に泥遊びを楽しんでいます。小学生でも「地域復興に関わりたい。自分たちもアクションを起こしたい」という言葉が出るなど、活動を通して地域への思いを強めています。セーブ・ザ・チルドレンの調査でも、被災地の子どもの約9割が復興に関わりたいという思いを持っているという結果が出ています。子どもたちが真剣に地域のことを考えている姿に影響を受けて、大人たちも「私たちも前に進まなきゃ。子どもたちのためなら一致団結できる」と勇気ももらっています。

子どもたちも亘理の 復興の担い手

沿岸部の計画策定のワークショップや苗木づくりでは、実際に沿岸部の見学に行く場合もあります。その際、お子さんたちの心に配慮をしています。中には友だちや家族、家を津波に流された子もいますので、先生や親御さんとの対話の中でプログラムをつ

くっています。復興はだれかに丸投げしてできることではありません。みんなでこういう未来にしたいんだというビジョンを共有しながら、みんなの声を反映させてプロジェクトを進めたいです。12月22日に、沿岸部で気球を上げるイベントを予定しています。合わせてシンポジウムも行います。より多くの町民が集まって、より多くの声を聞ける場になったらと思います。

今、子どもたちが蒔いた種は、3年後には成長して、実際に沿岸部に植樹できるようになります。3年後にまた、地元の復興への思いを改めて感じてもらい、この中の誰かが、町づくりの担い手になってもらえたら嬉しいですね。子どもたちが、未来にも関わり続けたいと思える地域を作るプロジェクトにしていきたい、また、そういう思いを抱く子どもや若者を育てたいと思います。

〈取材日：平成24年12月5日〉



「はやくおおきな〜れ!」



ホントは身近なボランティア

It's also "volunteer"!

このコーナーは、地域に密着して人々の暮らしを支えている自治会・町内会、地区社協などの活動を紹介します。地域ごとの特徴的な活動やボランティア・市民活動との接点・共通点などに着目していきたいと思います。

第6回 山形県 山形市西山形地区

たかはし そういち
高橋 宗一さん
(山形県 山形市西山形地区
社会福祉協議会会長)



POINT

- 専門職にも関わってもらうことで、悩みを受け止めるだけでなく解決にむけてのアドバイスももらうことができる。
- 参加する側の立場に立ち、時には開催場所を変えて遠方の人も参加しやすいように工夫している。

1 介護者を支援するつながり

日々介護をする人々同士に、現在の悩みや困りごとを吐き出させたい。介護者の心の支えになりたい。

山形県山形市西山形地区社協が主催する「いっぷく会」は、平成22年11月から開催し、毎月第三週の木曜日、13:30-15:00、介護者のサポートに努めています。

日々の困りごと、相談したいこと、介護のストレスを話すなど、介護者同士の交流の場となっています。地域の一般的なサロンとは異なり、同じような悩みを抱えている人々同士の交流ですから、介護者の本音を相談できる機会となっているのです。

「いっぷく会」の開催に当たっては、老人ホームや地域包括支援センターなど専門職の方々にも参加してもらい、専門的なアドバイスもいただきます。

参加者は、自宅で介護をしている方、自宅介護の経験者、これから介護をする方々が中心。女性ばかりではなく、結構男性の参加もあります。介護者同士の交流機会は、それほど多くはないのです。

2 話すことは、救うこと

「いっぷく会」へは毎回10名前後の方に参加いただいています。しかし、参加メンバーは固定化されつつあることが今後の課題です。もっと広がりを作ってゆきたいと考えています。

会場は参加者の顔が見えやすいレイアウトにし、自己紹介から始めて一体感がある雰囲気づくりを心掛けています。

「いっぷく会」は勉強会ではありません。あくまで、介護者が心に溜めた、行き場のない声を吐き出す場です。参加者の中には、「話すことで楽になった」とおっしゃる方もいらっしゃいますし、他の方々の話を聞き、自身の介護の参考にされる方も多いようです。

3 もっと暮らしに寄り添いたい

現在、「いっぷく会」は地域のコミュニティセンターを中心に開催していますが、参加したくても遠くて参加できないという方々のために、年に3～4回は場所を替えて開催します。

各地区での開催に当たっては、地区だより、地域包括支援センターのチラシ、民生委員さん達のお声掛けにより告知。これをきっかけに、「地域に呼びかけ、地域の中でやる」、つまり小さい単位の地区内で開催することが今後の目標です。

これから介護する方はもっとも増え、サポート需要も高まると思われます。私たちは、介護者に寄り添う“必要不可欠なつなぎ役”として、地域に貢献したいと考えています。



「いっぷく会」



隣の コーディネーター

今、社会にはさまざまな分野で、“コーディネーター”と呼ばれる専門職が活躍しています。このコーナーは、毎月さまざまな“コーディネーター”にインタビューし、コーディネーターをするうえで大切なこと、プロとしての姿勢などについて尋ねていきます。

今月のコーディネーター 「デンタルインプラント コーディネータ」

日本デンタルインプラント
コーディネータ協会

さいとう みなこ
齊藤 三奈子さん



Q どのようなお仕事ですか？

A デンタルインプラントコーディネータは、日本デンタルインプラントコーディネータ協会が認定している資格です。資格保有者の中には、歯科衛生士や歯科医師の資格も持っている人もいます。私もコーディネータと歯科衛生士両方の資格を持っています。私の場合は歯科医院に所属していて、医院に来られる患者さんに、インプラント治療の説明、歯科医師が説明した治療計画を十分に理解してもらえるように更なる説明、オペの内容やスケジュールの打ち合わせ、オペの手配、オペ後のフォローアップまでを行います。患者さんは忙しい歯科医師の説明だけでは解らない事も多いこともあって、診療後にスタッフに聞いてこられることもあるんですよ。病院側と患者さん側の間に立って、その患者さんの一連の治療がスムーズにいくようにサポートします。

Q コーディネータをしていて良かったと感じるのはどんな時ですか。

A 治療が終わった患者さんから「安心し

てインプラント治療ができた、ありがとう」と言われた時はうれしかったですね。元気になってもらうためにやっているのに、こちらが逆に「ありがとう」と言われて元気をもらってしまいました。

Q コーディネートをする際に大切にしていることを教えてください。

A 丁寧なコミュニケーションを通して信頼関係をつくることです。私はそのために、患者さんとの約束は絶対を守るようにしています。また、患者さんとドクターの橋渡しになるわけですから、お互いの思いが確実に伝わるように注意を払っています。デンタルインプラントは死亡事故の事例がメディアで取り上げられたり、正しい知識が知られていなかったりして、患者さんは初め不安をお持ちです。正しく行えば安全であること、当院ではそのような心配はないということを丁寧にお伝

えています。私は衛生士になる前は、化粧品会社に10年勤めていました。その時のお客様とのコミュニケーションの経験が、今生きていると思います。患者さん、お客様の気持ちを第一にするということは共通しています。

Q 今後の抱負を聞かせてください。

A ひとりでも多くの患者さんに笑顔で帰っていただくために、一人ひとりとしっかりと対話したいです。



帰ってきた!

あるある質問コーナー

このコーナーは、ボランティア・市民活動に関してよくある悩みや問題について、「社協ボラセンナビ」(平成24年3月全社協発行)や、「ボランティア情報」の企画を行っている広報委員から考え方の一例をご紹介します。

Q 兼務のため、ボランティアセンター業務に集中できません。

A ボランティアセンターの固有の業務が何か?住民のたを基準として優先順位をつけましょう。

全国ボランティア・
市民活動振興センター

広報委員
安藤 雄太さん

ポイント1

「ボラセン固有の業務を見直してみよう」

今、多くの市町村社協ボランティアセンターでは関連部署との兼務体制でおこなわれているところが増えてます。背景的には、社協業務が拡大してきている一方で、財源上の問題で人員が充てられないというところに大きな要因があるといえます。いずれにしてもそれぞれの社協の業務の推進方針と言えるでしょう。

そこで、兼務のため集中できないのは相当多忙なためと思いますが、ボランティアセンターの固有の業務が何かを分析する必要があります。そのとき、ボランティア活動を推進する上で、他の部署の業務と協働した方が効果的な活動、他の団体・機関と協働した方が効果的な活動、ボランティア活動として単独で実施した方が効果的な事業などに部類・整理してみてください。もちろん、その時に「これまでやってきた活動だから」と言うのではなく、内容を精査する必要があります。

ポイント2

「兼務している業務と関連付けよう」

もともとボランティア活動の推進は、多様な領域や分野に関連を持っているはず。せっかく他の社協業務を兼務しているなら、まずその業務とボランティア活動推進を関連付けることも大切なことです。何故なら、ボランティア活動の推進は、他の業務と連携し一般化していく戦略も必要だからです。

ポイント3

「住民のたを基準とした優先順位を考えよう」

さらに協働ということを考えてみると、社協活動は住民主体の活動であり、市民の主体的活動を支援し、協働していく活動、すなわち市民活動なのです。それを基準に、「これだけはやらなければならない」「やらなくても困らない」と、業務のプライオリティを付けていきましょう。

保険の広場

今月の質問

送迎サービス補償に関するQ&A

Q1

Q1. お年寄りのデイサービスや病院などの送迎ボランティア活動をしています。活動中のケガや利用者のケガなどの事故が心配です。どのような補償に加入すればよいのでしょうか？

A1

- ボランティア自身の活動中のケガ等の補償には・・・
「ボランティア活動保険」（無償の活動）と「福祉サービス総合補償」（無償・有償の活動）があります。
活動者本人のケガの補償と活動に起因する賠償補償がセットされています。
なお、自動車に起因する賠償事故は補償されません。（自動車保険で補償されます。）
- 利用者のケガの補償には・・・
「送迎サービス補償」（A1プラン・A2プラン・Bプラン）がありますので、活動実態に適した加入プランを選択してください。
- ・A1プランは、利用者個人々々を特定して加入する方式で、その特定の利用者のみが補償されます。利用者1名につき年間契約ですので、同一利用者へのサービスが年間100日を超える場合に適しています。
サービス利用中の利用者が交通事故によりケガをした場合の補償です。
 - ・A2プランも、利用者個人々々を特定して加入する方式ですが、利用者1名につき1日契約ですので、同一利用者へのサービスが年間100日を超えない場合に適しています。
サービス利用中の利用者が交通事故のみならずケガをした場合の補償です。
 - ・Bプランは、あらかじめ使用する自動車を特定して加入する方式で、その特定車両に搭乗中のみが補償されます。
サービス利用者だけでなく運転者や同乗者全員のケガが補償されます。なお、営業用自動車は加入できません。

送迎サービス補償 A1 A2 B



Q2

AプランとBプランは重複して加入できますか？

A2

加入できます。
ただし、A1プランとA2プランは重複加入できません。

Q3

送迎に使用している自動車を修理に出し代車で活動していますが、補償はどうなりますか？

A3

A1、A2プランは、送迎中であれば代車でも補償されます。
Bプランの場合は、自動車を特定して加入していますので、異動通知書にて使用車両の変更を事前に通知してください。

お知らせ

年末・年始の休暇中に、ボランティア活動や行事を予定されている場合は、最寄りの社会福祉協議会で、早めに加入手続きをしてください。

ボランティア活動保険等についてのお問合せは、株式会社 福祉保険サービスまでどうぞ。

TEL/03-3581-4667 FAX/03-3581-4763 URL <http://www.fukushihoken.co.jp/>

ボランティア活動保険等の補償制度は、社会福祉協議会およびその構成員・会員ならびに社会福祉協議会が運営するボランティア・市民活動センターなどに登録されているボランティア・ボランティアグループ・団体が加入対象です。

つながって

広げ続けよう!

地球環境パートナーシップ会議(EPC)
国際プロジェクトコーディネーター

きたはし
北橋 みどりさん

高校生時代にはまちづくりや環境のボランティアを、大学生時代にはエコリーグの代表を務め、「みんなが生き生きと暮らせる環境をつくりたい」とEPCに転職。環境問題に直面する外国の友人の存在や母親としての立場から、地球温暖化や食糧問題に関心を寄せ、取り組んでいる。



地球環境パートナーシップ会議が事務所を置く地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)は環境ボランティアの総合サポートセンターで、市民・企業・行政機関等の連携・協調関係(パートナーシップ)創出のための活動をしています。地域のそれぞれの団体が連携しようとする時、お互いの利害が影響し合っただけの場合があります。ですから、コーディネートを専門に行う私たちの活動に意義があると思います。

環境問題に関して、日本人は世界的にも意識が高い方ではありますが、行動はまだ十分とは言えません。また、政府もNPOや企業に対して、インセンティブを付けるような施策を行い、多様な主体をサポートしていく必要があると考えています。ボトムアップとトップダウン両方の動きを手伝って、持続可能な社会を実現していきたいです。



メンバー集合。
GEOCでお待ちします!

INFORMATION

あなたの写した“復興のつぼみ”募集します。

来年度の「ボランティア情報」は今年度引き続き、表紙で、東日本震災からの復興の様子を追いつづけます。掲載する写真は全国の皆さまからも募集します。主なポイントは4点だけです。

- ★東日本震災から、復興・復興しようとする様子が感じられる写真。
- ★画質の良い写真(カメラ・スマートフォンのカメラで撮影したもの。容量2MBが目安)
- ★写真に関する説明や思いを添えてください。
- ★後日インタビューさせていただく際のご連絡先を明記してください。

詳細な条件はこちらから→<http://www.zcwvc.net/>月刊ボランティア情報/

送付先 vc00000@shakyo.or.jp

復興へのパワーがつまった写真、お待ちしております!

事務局だより

クリスマスに忘年会にお正月に新年会と、これから楽しいイベントが続きますね♪またなんだか年末年始というだけで、何かいいことをしたくなったり、家族や友人の喜ぶ顔が見たくなったりがはやってしまいます。そしてますますお財布は軽く、体は重くなっているのですが…。でもでも精一杯、地域経済の活性化に寄与したいと思えます! (本当はもっと一年のふりかえりをしたり、新しい目標を立てたりしないといけないのですが) (野川)

4月に入ったばかりの頃は、内外問わず「もう慣れた?」という質問をよくされたのですが、年末の最近、「もうすぐ1年経つね。だいぶ成長したんじゃない?」なんてお言葉をよくいただきます。いやいや、皆さま、まだあと3か月残ってます〜! といえ、せっかくの長いお休みなので、一度立ち止まってひとりで反省会してみようと思います。ああ〜もうすぐ「新人だから」と言えない季節がやってくる…(柴山)

※本誌掲載の取材対象者の(所属)・(役職)は取材日当日のものです。

「ボランティア情報」では、みなさんからのご意見や情報を募集しています。

ご意見や要望等のようなことでも結構です。企画の参考とさせていただきますので、全国ボランティア・市民活動振興センターまでお知らせください。